

の付着した窓ガラス、側板等を水洗いまたは必要に応じ清掃剤を用いて水洗いを行う。とくに汚れのはなはだし車両については清掃剤あるいは修酸水溶液等を用い、外部全般にわたり洗じょうを行う。

以上により内部・外部とも清掃後は窓・戸を開放し室内を乾かす。

優等車の座席および背摺(せずり)の覆は必要に応じ、別に洗たく・消毒したものと取替える。

3 貨車小掃除

小掃除は貨車到着駅において荷卸しののち、車扱についてはその貨物の貨主、その他については当該駅が行う。ただしタンク車、雪かき車、石炭車および折返し運用する貨車はこのかぎりでない。

この掃除については車内の塵埃を掃き出す。車内のはなはだしく汚れたものは必要に応じ洗うなど、主として内部についてのみ行うものである。

4 貨車大掃除

大掃除は車掌車・有蓋緩急車・冷蔵車・活魚車・家畜車・豚積車および国鉄工事用貨車はつぎにより行い、その他の貨車については必要に応じ行うのでとくに定めてない。

- (1) 車掌車・有蓋緩急車は仕立検査施行のつど客貨車区
- (2) 活魚車・豚積車は常備駅帰着のつど常備駅
- (3) 冷蔵車は指定した駅に到着のつど到着駅で内部のみ、仕立検査施行のつど客貨車区で外部
- (4) 家畜車は指定した駅に到着のつど到着駅
- (5) 国鉄工事用に使用の貨車は使用の終わったとき使用箇所ですれぞれ施行する。

掃除の要領は車掌車は客車の大掃除に準ずる。有がい緩急車、国鉄工事用貨車は車内を掃除し床板を洗う。冷蔵車は内部・外部とも水洗いを行い、必要に応じ清掃剤を用いて水洗いを行う。活魚車は水槽(そう)、貯水槽、散水口などを清水で洗う。家畜車、豚積車は床に消毒薬をまき側板・床板などを水洗いする。(斎藤雅男)

ぎやくこ 逆弧 (英) back fire 普通の整流器では電弧は正の陽極から負の陰極に通じて流れるが、逆方向には流れない。しかし時にはこれが逆に負の陽極から正の陰極に流れることもある。これを逆弧という。水銀整流器にとってこの逆弧は宿命的問題ともいわれ、幾多の設計がこれを解明防止しようとしている。しかし現在逆弧を防止する決定的方法は見出されていない。いかなる整流器でも電圧電流が、ある程度以上になれば逆弧は免れぬものであって、整流器の定格は今日においては逆弧を生ずる極限として定められる状態である。その原因としてはつぎのものがある。

- 1 高い逆電圧のために起るもの。
- 2 イオンの多量に存在するとき起るもの。

このような逆弧現象が起ると整流器用変圧器には、数万Aにもおよぶ大電流が流れ多大の損傷を与える。現在その対策として考えられている点はつぎのとおりである。

- 1 製作当時材料の処理を十分に行う。
- 2 良好な気密状態を保たせる。
- 3 低圧化を十分に行う。
- 4 整流器の周囲温度とくに陰極付近の温度を適当にとること。(村田良二郎)

きやくしゃ 客車 (英) passenger car (独) Personenwagen 鉄道車両のうちで、旅客・郵便物、または手・小荷物を輸送するための車両をいう。動力装置を有して自ら走行しうる動力客車と、動力装置を有しないでもっぱら機関車に牽引(けんいん)

ん)される客車とがある。

電車および気動車は動力客車に属し、そのうち動力客車に連結牽引されるものをとくに付随車という。客車という語は動力客車を含めて呼ぶ広い意味と、これを含まないで呼ぶ狭い意味とがあり、単に客車という場合は後者をさすことが多い。

国鉄においては旅客を乗せないが、郵便物および手・小荷物を積載して、旅客列車に編入されて運行するものはすべて客車としている。——客車の種類。(林 正造)

きやくしゃうんよう 客車運用 旅客の交通量はだいたい毎日一定の型をなしており、しかも上り下りの交通量も大差がないのである。そのため列車の編成をあらかじめ決めておき、その編成の歩き方も、保守清掃の作業が完全にできるように根拠地を指定して、客車の使用計画をたてるのが客車運用を組むことである。すなわち客車運用とは、列車の編成の歩き方を定めたもので、その歩き方は客車の使用効率の向上を図るとともに清掃・検査のために客車の受持根拠地を定め、客車の経済的使用をはかる方法である。(古池義雄)

きやくしゃきゅうすいせつび 客車給水設備 (英) water supply facilities for passenger car 客車に必要ないっさいの水を供給する設備。客車には旅客サービス上の重要な役割をもつ、便所および洗面所用水の備えが必要であり、また長距離列車にあっては、飲料水をも備えつける必要がある。これらに使用する水は衛生上処理済のものでなければならない。

1 使用水量

使用水量は旅客列車の種類すなわち普通列車と急行列車、遠距離列車と近距離列車および運転時は昼間であるか、夜間であるかなどによって大差があり、はなはだ不確定である。実績調査によってだいたいつぎの標準値を得ている。

便 所	……………5~6 l/回
洋式便所 (スロ 60 形)	……………18 l/回
洗 面 所 (スハ 44 形)	……………5~6 l/人
洗 面 所 (スロ 60 形)	……………10~12 l/人

2 客車水槽(そう)

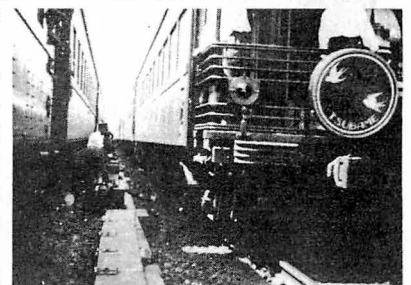
在来の客車はその屋根部に水槽をもち、これから便所および洗面所に配水し、とくに洗面所についてはこれに連なる小水槽を設け、機関車または暖房車からの蒸気によって加熱する装置の併設がある。

近時の鋼体客車では水槽を車体下部に設け、これに付帯する空気ポンプによって約1気圧の圧力水とし、便所および洗面所に配水する。水槽の容量は約700lである。

3 給水設備

客車給水は客車区の洗じょう線、始発駅の出発線で十分給水し、使用状況に応じて途中主要駅の着発本線で、列車の停車時分を利用して補充給水が行われる。前述のように使用状況は不確定であるため、線区内に設備を適応させることははなはだむずかしい問題である。

この途中駅の補給水は、短い停車時間中に列車の全車両に対して行うことは不可能であるため、給水駅ごとに補給すべき列車と、その列車



途中駅の客車給水設備